

は種時から、 3つの守りで ずっと安心。



ルーチン®
ブライト
箱粒剤

紋枯病から守る
ペンフルフェン

初期害虫+チョウ目害虫
+イナゴから守る
シアントラニリブロール

いもち病から守る
イソチアニル



いもち病



紋枯病



イネミズゾウムシ



イネドロオイムシ



ニカメイチュウ



フタオビコヤガ



イナゴ類
(コバネイナゴ)



大型包装
10kg入



慣行播種
箱当り
50g



1kg入

高密度播種
箱当り: 50~100g
(1kg/10aまで)

製品情報の詳細は
こちらから



は種時から、3つの守りでずっと安心。

ルーチン® ブライト箱粒剤

農林水産省登録 第24029号

●成分: シアントラニプロール 0.75% 殺虫剤分類 28

イソチアニル 2.0% 殺菌剤分類 P8

ベンフルフェン 2.0% 殺菌剤分類 7

●性状: 類白色細粒
●毒性: 普通物(毒劇物に配当しないものを指している通称)

ルーチン® ブライト箱粒剤の特長

- 紋枯病に卓効を示す「ベンフルフェン」、いもち病防除の定番「イソチアニル」、初期害虫やチョウ目害虫を含む幅広い殺虫スペクトラムを有する「シアントラニプロール」の3つの有効成分からなる水稻箱専用剤です。
- 水稻の主要病害虫に優れた防除効果と残効性を発揮します。
- は種時から移植当日まで使用可能です。
- QoI剤耐性いもち病菌に有効です。
- 高密度播種の場合、10a当りの育苗箱枚数にあわせて育苗箱当りの使用量を50～100g/箱で処理でき、安定した防除効果が期待できます。＊ただし、10a当りの処理量は最大1kg/10aです。

適用病害虫および使用方法

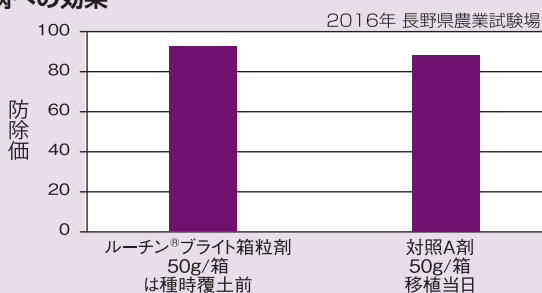
2021年10月現在の登録内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	使用回数*	使用方法	
稲 (箱育苗)	いもち病、もみ枯細菌病、紋枯病 白葉枯病、内穎褐変病 イネドロオウムシ、イネツトムシ ニカメイチュウ、フタオビコヤガ コブノメイガ、イネミズゾウムシ ツマグロヨコバイ、イナゴ類 ヒメトビウンカ	育苗箱 (30×60×3cm、使用土壌約5ℓ) 1箱当り50g	は種時(覆土前) ～ 移植当日	本剤:1回	育苗箱の 上から 均一に 散布する	
		高密度には種する場合は 1kg/10a (育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り50～100g)	移植3日前 ～ 移植当日	シアントラニプロール:1回 イソチアニル:3回 (移植時までの処理は1回、 本田では2回)		
	穂枯れ(ごま葉枯病菌) 疑似紋枯症(褐色紋枯病菌) 疑似紋枯症(赤色菌核病菌) 疑似紋枯症(褐色菌核病菌) イネヒメハモグリバエ	育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り50g	移植当日	ペンフルフェン:1回		

* 印は収穫物への残留回避のため、本剤およびそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示します。

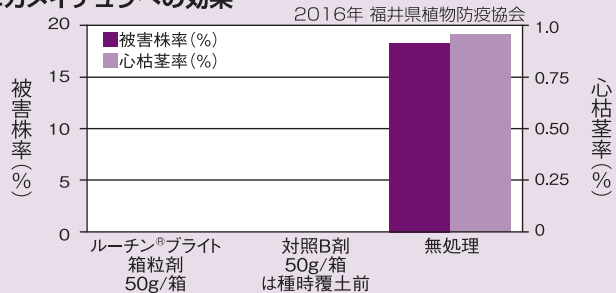
試験成績

紋枯病への効果



品 種: コシヒカリ 発生状況: 中発生(接種)
播 種: 5月17日 移 植: 6月3日 出 穂: 8月11日
調 査: 9月12日に各区100株について羽柴式調査法により発病の有無および最上位病斑高を調査(3反復)

ニカメイチュウへの効果



品 種: あきさかり 発生状況: 少発生 播 種: 4月10日 移 植: 5月4日
調 査: 7月20日(移植77日後)に各区100株×3カ所について被害株数および心枯茎数を調査

注意事項

- 育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当りに乾粉として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整して下さい。
- 極端な低温での育苗条件では生育抑制を生じるおそれがあるので、温度管理に注意して下さい。
- 育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水して田植機にかけて移植して下さい。
- ヒメトビウンカに対しては残効性に注意して下さい。
- 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗等には薬害を生じるおそれがあるので注意して下さい。
- 本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので、代かきは丁寧にを行い、移植後田面が露出しないように注意して下さい。
- いぐさ栽培予定水田では使用しないで下さい。また、本剤を処理した稲苗を移植した水田ではいぐさを栽培しないで下さい。
- さく等の他作物に影響を及ぼす場合があるので、薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように散布して下さい。また、土壌全面に不透水性無孔シートを敷くなど、薬剤処理後の灌水による土壌への浸透をさせて下さい。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

- 誤食などのないよう注意して下さい。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の担当を受けさせて下さい。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の担当を受けさせて下さい。
- 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意して下さい。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落として下さい。
- 散布の際は手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用して下さい。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをして下さい。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意して下さい。
- 水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないで下さい。
- 移植後は河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意して下さい。
- 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意して下さい。
- 散布器具および容器の洗浄水は、河川等に流さないで下さい。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理して下さい。
- 直射日光を避け、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管して下さい。
- ★ 播種同時施肥機や田植同時施肥機で使用する場合は、農機販売会社に本剤の使用に関して確認をして下さい。また、散布量の調整を実施したうえで使用して下さい。

● 使用前にはラベルをよく読んで下さい。 ● ラベルの記載以外には使用しないで下さい。 ● 本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。